

World Vision

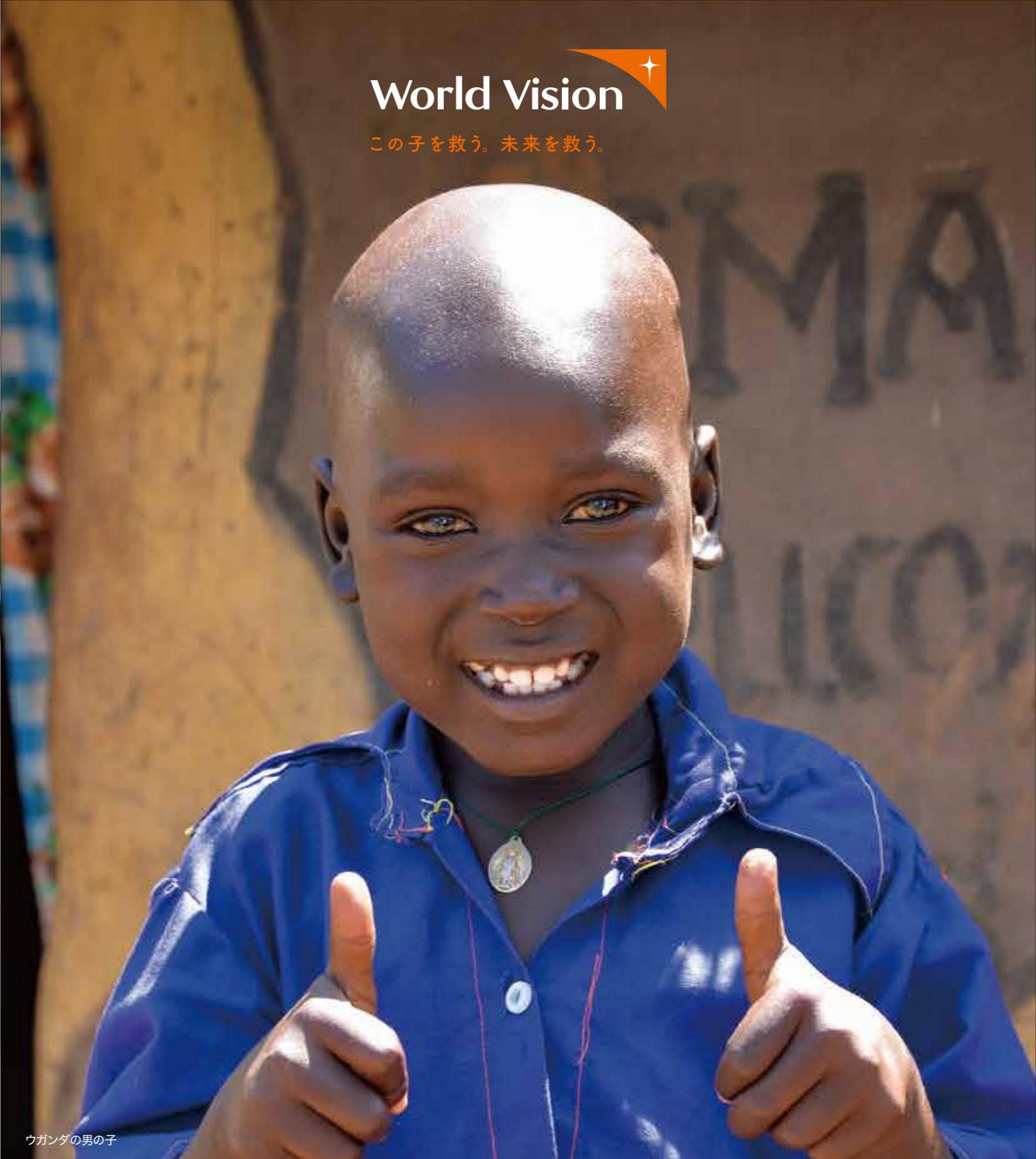
この子を救う。未来を救う。



カンボジアの子どもたち

World Vision

この子を救う。未来を救う。



ウガンダの男子

特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン
2022年度 年次報告書

2023年3月発行

発行 特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン
〒164-0012 東京都中野区本町1-32-2 ハーモニータワー3F
TEL:03-5334-5350(代表) FAX:03-5334-5359
HP:www.worldvision.jp
郵便振替 00130-6-254059

当団体は認定NPO法人です。皆さまからのご寄付は寄付金控除等の対象となり、税制優遇措置を受けられます。
本書の一部または全部を無断で複写、転載引用することを固く禁じます。

ワールド・ビジョン・ジャパン2022年度
年次報告書

World Vision Japan Annual Report 2022

2021年10月 - 2022年9月



その笑顔を守る。

ごあいさつ

日ごろより、ワールド・ビジョン・ジャパンを通じて、世界の子どもたちをご支援くださり、誠に有難うございます。心からの感謝を申し上げますとともに、年次報告書をお届けいたします。2022年度、新型コロナウイルス感染症の影響から立ち直ろうとしていた世界は、新たな紛争勃発に直面しました。多くの子どもや女性が故郷を追われ、2022年、世界の難民・避難民の数は1億人を突破しました。紛争の影響は世界経済全体にもおよび、物価高騰は、すでに干ばつ等により危機的な状況にあった飢餓に一層の拍車をかけ、ぜい弱層の人々をさらなる貧困へと追い込みました。このような危機が世界中で拡大し、また長期化する状況において、私たちワールド・ビジョンもまたグローバルレベルで力を結集し、最も弱い立場にある子どもたちの命を救う支援を届けてまいりました。ウクライナ危機の対応においては、2~9月末までに、36万人以上に支援を届けました。活動の基本の支援プログラムであるチャイルド・スポンサーシップを通じては、世界全体で320万人の子どもたちを、ワールド・ビジョン・ジャパンでも、6万777人の子どもたちを支えています。これもひとえに、皆さまのご支援のおかげと、改めて心より感謝申し上げます。

ワールド・ビジョンのロゴマークは、新たな未来を切り拓き、希望の光を届けるという私たちの決意の表れです。これからも困難を乗り越え、希望の光を最も必要としている子どもたちに届けてまいります。今後とも、皆さまの尊いご支援をたまわりますよう、お願い申し上げます。

特定非営利活動法人
ワールド・ビジョン・ジャパン
理事長



小西 孝蔵

「地図から踏み出す」。数年前、私たちがこのテーマを定めた時には、これほどの困難な世界に押し出されることになるとは想像していませんでした。

「Withコロナ」の働き方に私たちも少しずつ慣れ、海外渡航も再開できるようになり、パンデミックの傷から回復を目指す現場で再び、世界の同僚とともに活動を進めようとした矢先に、ウクライナで爆音が轟きました。多くの悲しみと苦しみ生まれ、新たな危機がすでにあった危機に追い打ちをかけました。貧困、難民、教育、保健、児童労働、児童婚など様々な開発・人道支援統計が悪化傾向へと逆転し、最前線の同僚からは深刻な報告が日々届きました。しかし、そのような状況だからこそ私たちにすべきことがあり、それを届けることを可能とする皆さまからのご支援がありました。戦禍を逃れてきた子どもに一時の安心を、避難民の方々に暮らしを取り戻す希望を、働くため学びを中断せざるをえなかった若者に復学の機会を、お父さんに娘に早すぎる結婚を強いる以外の選択肢を、お母さんに我が子の命と健康を守る知識を届けることができました。逆境の時にあって、2022年度、ワールド・ビジョン・ジャパンは、かつてない規模のご支援をお預かりしました。新たに取り組む、日本の弱い立場にある子どもたちへの支援にも多くのご寄付をたまわりました。皆さまのご信頼に、心から感謝いたします。

地図から踏み出す先に待つ世界の子どもたちが、豊かないのちを生きられる平和な世界を築くべく、ともに歩んでくださる皆さまに支えていただき、これからも前進してまいります。

特定非営利活動法人
ワールド・ビジョン・ジャパン
理事/事務局長



木内 真理子

2022年度 年次報告書 目次

数字で見るワールド・ビジョン・ジャパン	03	企業・団体との連携	19
2022年度 活動マップ	05	広がる支援の輪	21
チャイルド・スポンサーシップのしくみ	07	皆さまとともに	22
チャイルド・スポンサーシップによる事業	09	ウクライナ危機緊急支援	23
募金や他団体との連携による事業	13	2022年度 会計報告	24
国内での事業	17	2022年度 支援事業一覧	27
アドボカシー	18	ワールド・ビジョンについて	29

基本理念

私たちはキリスト教精神に基づいて活動します
 私たちは貧しい人々のために献身します
 私たちはすべての人を価値あるものとします
 私たちは仕えるものです
 私たちはパートナーです
 私たちはすぐに対応します

ウクライナの女の子

ビジョン・ステートメント

私たちのビジョンは、
 すべての子どもに豊かないのちを
 私たちの祈りは、
 すべての人の心にこのビジョンを実現する意志を
 Our Vision for every child, life in all its fullness
 Our Prayer for every heart, the will to make it so

ミッション・ステートメント

ワールド・ビジョンはキリスト教精神に基づく
 国際的なパートナーであり、イエス・キリストにならい、
 貧しく抑圧された人々とともに働き、人々の変革と、
 正義を追求し、平和な社会の実現を目指します。
 私たちは、このミッション実現のために、
 総合的かつ全体的な方法で、右の働きを行います。

- 変革をもたらす開発
- 緊急人道支援
- 正義の追求
- 教会とのパートナーシップ
- 情報提供
- スタッフの生活、行動等を通じたミッション・ステートメントの実践

数字で見る

ワールド・ビジョン・ジャパン

ワールド・ビジョン・ジャパン(WVJ)の活動は、「開発援助(チャイルド・スポンサーシップ等)」、「緊急人道支援」、「アドボカシー(市民社会や政府への働きかけ)」の3本柱です。ここでは、世界で活動するWVJの2022年度の活動概要を、数字でご紹介します。



活動国・事業数



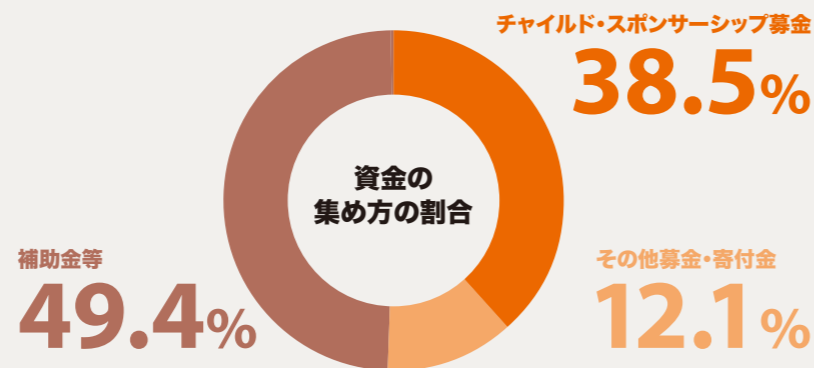
※国内災害・子ども支援事業含む

資金の集め方

2022年度の経常収益 85億3,165万円
詳しい会計報告はP24をご覧ください。

資金の集め方とその割合

WVJに寄せられる資金の約4割は、チャイルド・スポンサーシップによるものです。その他、水と食糧のための募金や難民支援募金、国際機関や政府等からの補助金によって活動しています。



資金の使い方

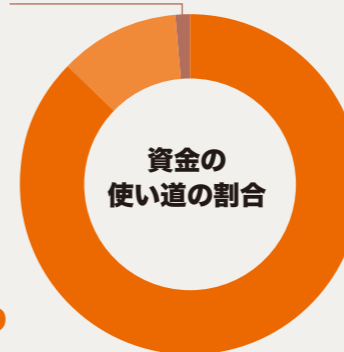
2022年度の経常費用 85億1,734万円
詳しい会計報告はP24をご覧ください。

資金の使い道とその割合

団体の運営・管理のため 1.3%

広報活動のため 11.3%

現地事業活動のため 87.4%



活動を数字とりにまく数字

チャイルド数	60,777人	チャイルド・スポンサー数	49,349人
チャイルドからチャイルド・スポンサーへの手紙	約13,500通	チャイルド・スポンサー以外の募金者数	17,831人
イベント開催回数 (各種報告会、グローバル教育等)	22回	補助金等による支援	11団体87件
職員数 (嘱託・アルバイトを含む)	81人	連携企業・団体数	3,116社・団体
海外駐在スタッフ数	7人	ボランティア数	90人

ワールド・ビジョン・ジャパンは 世界37カ国で185の事業を 実施しました

すべては子どもたちのために。ワールド・ビジョン・ジャパン(WVJ)は、チャイルド・スポンサーシップ等による開発援助、緊急人道支援、アドボカシーを活動の3本柱として、2022年度は世界37カ国で185の事業を実施しました。



各国駐在スタッフ(2022年度)

渡邊 裕子	ヨルダン	2015/3~
服部 紗代	ヨルダン	2019/9~
宮内 繭子	ラオス	2019/11~
大沢 歩	タンザニア	2019/12~
李 義真	カンボジア	2021/2~
吉川 剛史	バングラデシュ	2021/6~2022/6
小園 若菜美	ベトナム	2022/4~

アフリカ

開発援助



チャイルド・スポンサーシップで支援する小学校にて。子どもたちと望月スタッフ(中央/ケニアのイラマラクAP)

開発援助



ミシンの支援と縫製研修を受けて収入を得られるようになった女性。今では自信と将来への希望を持てるようになりました(コンゴ民主共和国のトヨタAP)

開発援助



支援により栄養価の高いさつまいもを栽培している農家(タンザニア)

開発援助



出生証明書を手にする子どもたち。教育を受け、保護される権利を得ました(エチオピアのデラAP)

緊急人道支援



新型コロナウイルス感染症・衛生に関する研修の様子(南スーダン)

東欧・中東

緊急人道支援



ウクライナ危機に迅速に対応し、チャイルド・フレンドリー・スペース(子どもが安心、安全に過ごせる場所)を提供しました(ルーマニア)

緊急人道支援



支援を通してトイレを設置した家庭の女性と服部スタッフ(左/ヨルダン)

アジア

開発援助



支援で開催した読書キャンプで学ぶ子どもたちと李スタッフ(中央/カンボジア)

開発援助



正しい手洗いを学ぶ子どもたち(ネパールの西ティAP)

開発援助



人身取引予防の研修を受講している女性グループの様子(ベトナム)

開発援助



読書と勉強への意欲を高めるために開催した読書キャンプ。参加した子どもたちと宮内スタッフ(右端/ラオス)

中南米

開発援助



チャイルド・スポンサーシップの支援でモルモットを育てるビジネスを始めることができました(エクアドルのコルタAP)

国内

緊急人道支援



助成を行った「エプロン若菜」での弁当配布(右から3番目/バングラデシュ)

WVJが事業を実施している国

アフリカ

チャド
エスワティニ(スワジランド)
エチオピア
ケニア
ルワンダ
ソマリア
タンザニア

コンゴ民主共和国
ガーナ
モザンビーク
南スーダン
スーダン
ウガンダ

東欧・中東

アフガニスタン
イラク
レバノン
ルーマニア
ウクライナ

ジョージア
ヨルダン
モルドバ
シリア

アジア

バングラデシュ
インド
ラオス
ミャンマー
フィリピン
ベトナム

中南米

カンボジア
インドネシア
モンゴル
ネパール
スリランカ
日本

エクアドル
エルサルバドル
ホンジュラス

緊急人道支援



ロヒンギャ難民キャンプ内での心理社会的サポート・セッションに参加する西島スタッフ(右から3番目/バングラデシュ)

※AP(Area Program)とは、チャイルド・スポンサーシップによる地域開発プログラムを意味しています。詳しくはP7-12参照。

開発
援助

地域とともに歩みながら、子どもの健やかな成長を実現していくプログラム

チャイルド・スポンサーシップによる支援は、一人の子どもだけを対象にしたお金や物を提供する支援ではありません。そこに住む子どもたちが健やかに成長できる持続可能な環境を整えていけるよう、支援地域の人々とともに水衛生、保健・栄養、教育、生計向上、子どもの保護等の地域の課題に取り組みます。活動の成果を地域の人々自身が将来にわたって維持し、さらに発展できるように、人材や住民組織の育成にも力を入れています。

保健・栄養 健康と成長を守ります

地域で保健サービスを提供できる人材を育成し、子どもの病気予防や栄養状態の改善、妊産婦のケア等の啓発・トレーニングを行います。また、保健施設や備品の整備等も行います。



「娘はひどい栄養不良でしたが、栄養に関するプログラムに参加し、子育てや食事について学びました。3カ月後には娘の栄養状態はよくなり、今では健康に育っています」(ベトナムのダバックAP)

生計向上 家族の収入を増やします

子どもたちの家族がより安定して収入を得られるように、畜産・農業支援、職業訓練、貯蓄・融資組合の活動支援等、地域の特性をいかした活動を行います。



「生計向上プロジェクトで始めた家庭菜園で収穫した野菜を市場で売り、収入が向上しました」(バングラデシュのイスラムプールAP)



※AP=Area Program(チャイルド・スポンサーシップによる地域開発プログラム)

教育 学ぶ環境を整えます

地域のリーダーや保護者を対象とした啓発活動を実施。教育の重要性を伝え、子どもたちが教育を受けられるよう働きかけます。また、教育施設・備品の整備や、教師へのトレーニングを行います。



読書キャンプに参加した子どもたち(ネパールのバジャンAP)

水衛生 安全な水を飲めるようになります

安全な水の確保は、子どもたちの病気を防ぐために欠かせません。井戸や貯水タンクを設置するほか、トイレの整備を行います。



「ワールド・ビジョンは、私たちに正しい手の洗い方を、楽しく教えてくれました。病気になるないように、ちゃんと手を洗います」(ウガンダのキルヤンガAP)

子どもの保護 子どもの健やかな成長を支えます

子どもを虐待や労働・搾取等の暴力から保護し、すべての子どもの権利が守られ個性が尊重されるよう、地域のリーダーや保護者、子どもたちを対象にした啓発・トレーニング等を行います。



「ワールド・ビジョンは楽しいゲームを通して、子どもの権利と義務を私たちに教えてくれます」(エクアドルのブンガラAP)

チャイルド・スポンサーシップのプロセス

チャイルド・スポンサーシップの支援期間は、約15年。地域の人々が、支援終了後も子どもたちを健康に育て、学校に通わせ、自分たちで問題を解決できるようになることを目指しています。

準備

地域の人々や行政関係者との関係構築、支援ニーズの調査、事業計画策定を行います。

開始 ▶▶▶▶

それぞれの支援地域のニーズに合わせて子どもの保護等の活動を行います。事がら進めます。

実施中の地域開発プログラム(AP)

キルヤンガ、ロバランギット・カレンガ(ウガンダ)、ゴンダール・ズリア、テラ(エチオピア)、イラマタク、キアムボゴ(ケニア)、カンボポ、トヨタ(コンゴ民主共和国)、ゲガ、シェウラ(エスワティニ(スワジランド))、ゴロワ、ムキンガ、ムゲラ、ルテンテ(タンザニア)、キラムルジ、グウィザ、キャガタレ(ルワンダ)

活動が進みます

水衛生、保健・栄養、教育、生計向上、事業計画に基づき、評価や見直しをしながら進めます。

AP
Asia

カンドゥール、キラユ、サイダベト、テオガル、ブドゥコッタ、シュラバスティ、サーガル(インド)、トモ・ブオ、ボレイ・チュルサル(カンボジア)、リティマリヤダ(スリランカ)、西ドティ、バジャン(ネパール)、イスラムプール、ビルゴンジ、ヒロル、フルバリア(バングラデシュ)、サマル、レイテ(フィリピン)、ダバック、トアンザオ、ムオンチャ(ベトナム)、カンティタン、タバウン(ミャンマー)

卒業準備

これまでに育成した人材・住民組織が、いよいよ自分たちで活動を継続できるよう準備します。

中
南
米

コルタ、ブンガラ(エクアドル)、サンアグスティン、ティエラ・ヌエバ(エルサルバドル)

卒業

すべての子どもたちが「豊かないのち」を生きられるよう、地域の人々によって活動が継続されます。

2022年度に卒業した地域開発プログラム(AP)

AP
Africa

バヤン・ウルギー、ハイラスト(モンゴル)、チャンエン(ベトナム)

開発
援助

チャイルド・スポンサーシップ

2022年度は3つの地域開発プログラムが卒業(支援終了)を迎えました。そのうちの2つの地域での成果をご紹介します。

支援卒業報告

ハイラアスト地域開発プログラム(モンゴル)

支援期間 2005年～2022年



支援の背景

急激な都市化が招いたインフラや公的サービスの不足、貧困問題

首都ウランバートルの北部にあるハイラアスト地域は、1991年の社会主義体制崩壊後、働く機会を求めて地方から移住してきた貧しい世帯が多く住んでいます。国の人口約300万人の半数近くが暮らす首都周辺には、このような貧困地域が広がり、急激な都市化の一方、インフラや公的サービスの整備は追いつかず、深刻な大気汚染、不衛生な環境や貧困といった問題も山積。零下40度にもなる厳冬期には、貧しい人々の生命が危険にさらされることもあります。都市部のためモノや情報へのアクセスが容易な反面、それが原因の犯罪も絶えません。



仕事を求め移住した人々の簡素な家が並ぶ支援地域



飲料水を求め給水所に水を汲みに行く子どもたち

実施した支援の概要と成果

地域に寄り添い続けた17年間で子どもが安全に暮らせる環境に変化

教育

支援地域では人口急増によって教育施設や設備が整わず、教員は行政の資金不足から必要な研修を受講できない状況でした。また貧困や失業などの問題を抱える家庭では、子どもの教育は重要視されていませんでした。そこで、学校や幼稚園の設備改修や備品の提供、教員への教授法の研修などを実施しました。この結果、多くの子どもたちが、より良い環境で学習を続けられるようになっています。



整備された学校で読書を楽しむ子どもたち

生計向上

移住世帯は適切な転居手続きをしておらず仕事に就けない場合が少なくありません。また、十分な教育を受けていない働き手も多く、生計を立てる方法や知識の不足は、家計を苦しめる一因でした。そこで、基礎的なビジネススキルの研修、職業訓練と必要な用具の供給などを通じ、収入を得るための基盤づくりを支援。2020～2021年は新型コロナウイルス感染症の緊急支援を実施し、生計の立て直しを支えました。



仕事道具としてミシンの支援を受けた女性

保健・栄養、衛生

保健施設の設備不足や保健スタッフの意識の低さから、地域には健康に関する正しい知識が定着していませんでした。手洗いなど衛生習慣も根付かず、ごみの不適切な処理なども多く、病気がまん延する状況でした。そこで、学校のトイレや保健施設を整備し、衛生環境を改善するための啓発活動を実施した結果、関係者・利用者の双方が課題を特定し、解決のための活動計画を策定・実行できました。



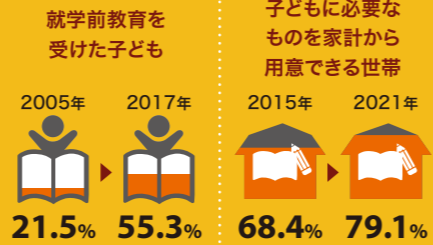
新設されたトイレ

子どもの保護

支援地域の家庭や教育現場では好ましくないしつけが行われ、子どもたち自身も、被害にあった時の対処法を知りませんでした。そこで保護者には、暴力・体罰による成長への悪影響を周知する啓発活動を、一方、子どもたちには、自身の保護や権利について考え、発信する場を設けました。子どもの権利や安全が侵害された場合に相談・通報する手段の確認に取り組んだ結果、家庭も地域も安全な場所へと変化しました。



子どもに対する暴力撤廃のメッセージを掲げる子どもたち



支援を受けたチャイルドの声

アリウンズルさん (21歳)
6歳から支援を受けていました。おかげで、無事に大学を卒業し、今では会社員として、母と妹の生活を支えることができています。いつも私を信頼し、サポートしてくれる人たちがいる—そう思うことで、困難の中でも、きっと未来は明るいのだと希望を持ち続けることができました。親愛なるスポンサーの皆さま、私たちの人生に多くの素晴らしい機会を与えてくださって、本当にありがとうございます。



支援卒業報告

チャンエン地域開発プログラム(ベトナム)

支援期間 2007年～2022年



支援の背景

山岳地帯の悪路が教育、保健、情報へのアクセスの障壁に

チャンエン地域は、首都のハノイから北西へ180キロ、車で約4時間の山岳地帯に位置しています。支援地域では道路の状態が悪く、これが原因で、教育や保健施設の整備、情報の普及が遅れています。このため、栄養や健康面で問題を抱える子どもが少なくありませんでした。人々の多くは農林・畜産業で生計を立てており、主な作物は米、とうもろこし、キャッサバ、ピーナッツ、たけのこなどです。地域には大小の河川があり、4～10月の雨期には鉄砲水や土砂崩れの被害が多発します。



支援当初の農地



ゴミが散乱する水路の水が病気の原因に

実施した支援の概要と成果

15年間の支援で子どもの健やかな成長を支える地域に

教育

教育施設の設備が不十分で、衛生設備や教材が不足していました。また、就学前教育の現場では知識のある教員が少ないことも課題でした。そこで、学校の修繕、設備や必要な備品を支援しました。今では就学前教育が充実し、多くの子どもたちが学校生活に必要なスキルを身につけ、その後の就学・学習状況が向上しています。また、子ども中心の教育方法を教員が学び、日々の授業に取り入れることで教育の質も改善しました。



衛生的に食器や調理器具などを管理しています

生計向上

地域住民のほとんどが従事する農業は、昔ながらの農法のため収入が不安定でした。そこで、品種改良や技術指導により収穫高を増やし、市場で販売するための研修を実施して収入の向上を目指すとともに、他の収入源として家畜の飼育も支援しました。また、家計管理の研修や貯蓄グループの設置を通じて、地域で資金を融通できる仕組みを導入。コロナ禍でも、多くの世帯が貯蓄グループから融資を受け、影響を最小限にすることができています。



新しい農法で米の収穫高が増えました

保健・栄養、衛生

地域では、5歳未満児の栄養不良の割合が郡の平均より高く、不衛生な水が原因の感染症の流行も頻発していました。また保健スタッフの知識・技術不足によって、保健サービスも十分ではありませんでした。しかし保護者への啓発や研修を行う栄養クラブでの活動や、保健ボランティアと幼稚園教員を対象にした、乳幼児のための食事指導などの結果、子どもたちの栄養状態を改善することができました。



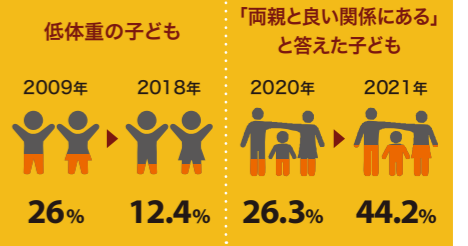
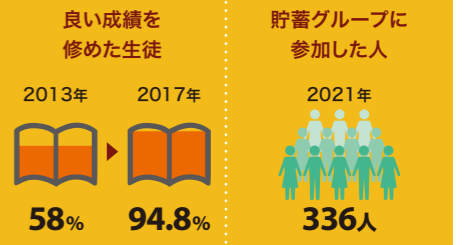
幼稚園に設置された水道で手を洗う子どもたち

子どもの保護

地域では、子どもの保護や権利について認識が低いこと、山間部のため安全に遊べる場所が少なく、事故やケガが頻発していたことが課題でした。支援で子どものために運動場の整備、危険から身を守る方法を学ぶ研修を実施しました。また保護者にも、体罰・暴力が与える悪影響について伝えました。この結果、今では子どもを守り育てるための活動計画を住人が主体的に策定し、実施しています。計画には子どもたちの意見も反映することができました。



子どもへの暴力撤廃について発表する男の子



支援を受けた住民の声

ヒエン・フワン・ティエンさん (児童保護委員会リーダー)
皆さまの支援によって、困難な状況で学校生活が続けることが難しかった子どもたちに、授業料や給食費の支援、家庭訪問を通じてさまざまなサポートを届けることができました。この素晴らしい取り組みができたのは、これまで私たちを支えてくださったスポンサーの皆さまの、尊いご支援のおかげです。これからも私たちは、子どもたちの安全と人々の暮らしを守るための活動を続けていきます。ありがとうございました。



開発
援助

チャイルド・スポンサーシップ 49の地

域開発プログラムを世界中で継続しています。そのうち3つの地域での成果をご紹介します。

カンボジアからの報告

ボレイ・チュルサール地域開発プログラム

支援期間 2011年～2027年



支援の背景

子どもの健やかな成長を阻む 家庭内外の暴力

ボレイ・チュルサール地域は、首都プノンペンの南側に位置し、車で2時間半ほどの距離にあります。住民は主に農業や小規模の畜産で生計を立てていますが、貧困世帯が多く、家庭内外における暴力や子どもへのケア不足等、子どもが安心して過ごせる環境の整備が課題でした。



支援地域の様子

2022年度の主な成果

教育

教師に図書館運用に関する研修を実施。その結果、2,400人以上の児童が定期的に読書し、読み書きの補習を受けられるようになりました。また、多くの学校で楽しく着実に学べる環境が整いました。図書館で楽しく本を読む子どもたち



子どもの保護

警察、行政関係者と連携し子どもの保護グループを設立するとともに、保護者に肯定的なしつけに関する研修を実施した結果、住民間で子どもの権利や心身の健やかな成長に関する理解が向上しました。子どもを大切にする関係性を学んだ家族



支援地域からの声

「学校でも自宅でも勉強に集中できて、とても嬉しいです。友達や兄弟にも読み書きを教えてあげています」
ソケンくん(8歳/中央)と家族

ルワンダからの報告

グウィザ地域開発プログラム

支援期間 2009年～2026年



支援の背景

不衛生な水を汲みに行くのは 女性や子どもたちの役割

首都キガリから車で1.5時間ほどの距離にあるグウィザ地域。大きな湖に隣接しているものの安全な飲み水の確保が困難で、人々の健康に悪影響を及ぼす状況でした。また丘陵地帯のため坂道が多く、水汲みの役割を担う女性や子どもたちの大きな負担になっていました。



子どもの保護について学ぶ地域の人々

2022年度の主な成果

生計向上

限られた水での栽培や土壌を守る持続的な農法を学び、農業資源を守りつつ、収入を得ています。また、小規模農家を組織化し、協働による生産性向上に取り組んでいます。野菜の収穫を喜ぶ人々



水衛生

小学校に手洗い場を設置。手洗いの研修を行い8,000人以上の児童が石鹸で手を洗えるようになりました。また、病気の感染拡大防止のためにトイレ建設の啓発活動も行いました。石鹸を使って手を洗う子どもたち



支援地域からの声

「読書キャンプに参加したおかげで、読み書きができるようになりました。今では学校の成績も良くなりました！」
読書キャンプに参加する子どもたち

エクアドルからの報告

ブンガラ地域開発プログラム

支援期間 2007年～2027年



支援の背景

子どもたちの未来を蝕む 貧困、薬物、暴力の問題

標高3,000m以上の山岳地帯にある町、ブンガラとリクト。先住民が住民の9割を占め、貧富格差が大きいエクアドルの中でも特に貧しい地域です。電気、上下水道、教育・保健施設等のインフラが整わず、貧困に加え、薬物・アルコール依存や家庭内暴力も大きな問題でした。



支援地域の家

2022年度の主な成果

子どもの保護

親・保護者160人を対象に肯定的なしつけに関するワークショップを開催。子どもたちの自尊心を守り、高めながら養育する方法を学び合いました。
「肯定的なしつけ」に関するワークショップに参加するお父さん



教育

識字能力向上のために、教材の配布、教授方法を学ぶ教師対象の研修、家庭での読み聞かせの普及など積極的に活動。また計算能力の向上にも取り組みました。
学習成果を誇らしげに発表する子どもたち



支援地域からの声

「ワールド・ビジョンの活動に参加して父は大きく変わりました。僕たちの面倒をよく見てくれ、地域のリーダーも務めています。とても嬉しいし、誇らしいです」
ファブリシオンくん(10歳/右から2人目)

チャイルド
との
つながり

タンザニア支援地域をバーチャルツアー形式で 楽しむオンラインイベントを開催

新型コロナウイルス感染症の世界的大流行を受け、ワールド・ビジョン・ジャパンでは、チャイルドを訪問し、支援地を視察する「支援地訪問ツアー」を見合わせています。それでも、チャイルド・スポンサーの皆さまに、現地の子どもの様子や人々の様子をお伝えしたい、という思いから2021年11月にオンラインのバーチャルツアーイベントを実施。チャイルドとのつながりを実感していただきました。

子どもたちが飛び跳ねながら元気に歓迎

11月4日、18日に開催したイベントには、のべ453人の視聴者が参加。タンザニア駐在のスタッフが案内するムキンガ支援地を巡るバーチャルツアーを楽しんでいただきました。チャイルド・スポンサーシップの支援によって整備された学校の施設や、そこで学ぶ子どもたちの様子など、皆さまのご支援が子どもたちの健やかな成長と地域の改善に役立っていると感じていただけるイベントとなりました。



支援地域の小学校に通う子どもたち。みんなで飛び跳ねながら歓迎してくれました



学校の案内をしてくれたハッサンくん。チャイルド・スポンサーシップの支援を受けています

募金や他団体との連携による事業

皆さまからの募金や日本政府からの補助金、他団体との連携
紛争、災害や危機の中にある子どもたちや人々へ迅速に支援

による事業を実施しています。
を付けています。

緊急 子どもの保護

事業実施国 ミャンマー、バングラデシュ、エチオピア、南スーダン、スーダン、
コンゴ民主共和国、アフガニスタン、シリア

連携機関 外務省 日本NGO連携無償資金協力
特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム (JPF)
国連児童基金 (UNICEF) / 国連人道問題調整事務所 (UNOCHA)

皆さまからの募金額

■ 児童保護募金	4,561,869円
■ 危機にある子どもたちのための募金	44,811,648円
■ 誕生日記念募金	25,426,213円
■ コミュニティ・サポーター	83,710,000円 ※水・食糧、難民支援分含む
■ プロジェクト・サポーター	44,192,500円 ※難民支援分含む
■ ミャンマー難民危機緊急支援募金	888,500円

バングラデシュからの報告

ミャンマー避難民キャンプ及びホストコミュニティにおけるジェンダーに基づく暴力 (GBV) からの保護と
コミュニティのGBV防止・対応能力強化事業



支援の背景 避難生活の長期化に 比例して問題も増加

ロヒンギャ難民は、様々な問題を抱えています。長期化する避難民キャンプでの生活による不安や苛立ちは、時に暴力として女性や子どもに向けられ、家庭内暴力は増加傾向に。文化的に女性の外出は制限され、問題を他者と共有し支援サービスを受けることが困難です。新型コロナウイルス感染症対策の外出規制はこの状況に拍車をかけました。児童婚や人身取引などの犯罪も後を絶ちません。



避難民キャンプ。夜は暗い



「女性と女子のセーフスペース」で
行われる裁縫教室



男性を対象とした啓発セッションの様子

女性と女子の権利を守り 尊厳を回復するための支援を継続

2022年度の主な成果

ジェンダーに基づく不平等の解消を目指しています

避難民キャンプに設置した「女性と女子のセーフスペース」において、女性、女子の心の安定と自尊心の回復を目指す裁縫や呼吸法の教室などを開催するとともに、被害者 (サバイバー) のためにケースマネジメントを提供、支援を行いました。また、情報が行き届いていない地区ではジェンダーに基づく暴力の予防と対応策について啓発セッションを開き、女性・女子768人が参加しました。加えて、男性、男子、コミュニティ・リーダーや宗教リーダーを対象とした啓発活動では、参加をきっかけに、娘の早婚を取りやめた男性もいます。さらに隣接するバングラデシュのコミュニティにおいても啓発活動を行い、政府関係者および警察へのオリエンテーションを通じ、コミュニティ全体の暴力の予防と対応能力の強化を図りました。

支援地域からの声

裁縫をしている時はつらい思い出を忘れることができます

生きるために故郷を離れ、悪夢のような旅路の果てに避難民キャンプにたどり着きました。以前から裁縫には興味があったので、ワールド・ビジョンの裁縫教室のことを聞いてすぐに参加しました。おかげで、ロヒンギャの伝統衣装や女性と子どもの服を仕立てられるようになりました。裁縫をしている時は、つらい思い出を忘れることができます。



裁縫をするサビカさん (仮名)

数値で見る成果

啓発セッション・研修の参加者数
(男女、キャンペーン参加者含む)

2,688人

街灯設置数

※ジェンダーに基づく暴力の軽減策として設置
(ホストコミュニティを含む)

10基

ジェンダーに基づく暴力を目にした時に
サポートを提供できると回答した
男性・男子・宗教リーダーの割合

93%

緊急 人道支援 難民・国内避難民支援

事業実施国 フィリピン、南スーダン、スーダン、ウガンダ、コンゴ民主共和国、ホンジュラス、アフガニスタン、イラク、レバノン、シリア、ヨルダン、ウクライナ、ルーマニア、モルドバ、ジョージア

連携機関 外務省 日本NGO連携無償資金協力 / 特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム (JPF) / 国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) / 国連人道問題調整事務所 (UNOCHA) / 教育を後回しにはできない (ECW: Education Cannot Wait) 基金

皆さまからの募金額

■ 夏期募金	38,000円
■ 難民支援募金	145,092,487円 ※新型コロナウイルス感染症緊急対応分含む
■ コミュニティ・サポーター	83,710,000円 ※子ども保護、水・食糧分含む
■ プロジェクト・サポーター	44,192,500円 ※子ども保護分含む
■ プロジェクト・サポーター (難民支援)	29,041,000円 ※新型コロナウイルス感染症緊急対応分含む
■ 緊急援助募金	9,112,520円
■ シリア緊急支援募金	1,099,090円
■ ウクライナ危機緊急支援募金	100,608,823円 ※ウクライナ危機緊急支援についてはP23をご覧ください。

シリアからの報告

シリアにおける新型コロナウイルス感染予防対策と水衛生事業



支援の背景 劣悪な環境の中、 安全な水の確保が急務

2011年から続くシリア危機。シリア北西部には国内避難民を含む440万人 (2021年11月時点) が、散発的な空爆が続く劣悪な環境下で暮らしています。紛争破壊、経済破綻、新型コロナウイルス感染症、および食料危機、ウクライナ危機等の影響から支援は減少。人々の困窮度は深刻化しています。安全な水を手に入らず、衛生環境は悪化、感染症予防対策も進まず、多くの命が危険にさらされています。



事業地避難民キャンプの様子



配付された衛生用品を見る母子



トイレの修繕・清掃

避難民の命を守る 水衛生サービスを整備

2022年度の主な成果

感染症予防の啓発にも取り組んでいます

避難民キャンプで暮らす人々に、安全な水や衛生用品の提供、ゴミ収集、共同トイレの整備・維持管理など、基礎的な水衛生サービスを提供しました。また、新型コロナウイルス感染症に加え、コレラの感染拡大リスクが迫っていたため、感染予防の啓発にも取り組みました。避難先の土地問題で突然住まいを追われたり、テントも大雪の影響で崩壊するなど、過酷な環境で生活している人々からは、支援によって「家計への負担が軽減され、気持ちが前向きになった」「不衛生な環境が原因で蔓延する感染症にかかることが減った」「感染症対策の知識を得て健康意識に気持ちが向かった」等の言葉が寄せられており、人々の命と健康を守る支援となっています。

支援地域からの声

感染症予防を学び、安心して勉強が続けられます

私には、美しかった故郷を再建するという夢があります。そのために学校で勉強を続けています。新型コロナウイルス感染症がこの地域に広がり始めた時、学校が閉鎖され、自分の夢が実現できないという不安から、テントから出られなくなりました。でも、支援で感染症予防の方法を教わってから、今では学校に戻ることができ、さらに一生懸命学んでいます。



予防啓発活動に参加するナティアさん (仮名)
(右から2人目)

数値で見る成果

安全な水の供給

21,936人

日常生活・感染予防に必要な
衛生用品の配布

4,911家族

感染症予防啓発活動

4,667人

開発 緊急 水・食糧支援

事業実施国 ミャンマー、バングラデシュ、エチオピア、ルワンダ、ソマリア、南スーダン、スーダン、タンザニア、ウガンダ、コンゴ民主共和国、エスワティニ、モザンビーク、ガーナ、アフガニスタン、イラク、レバノン

連携機関 外務省 日本NGO連携無償資金協力/国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) 国連人道問題調整事務所 (UNOCHA) / 世界銀行 (WB) 国連世界食糧計画 (WFP)

皆さまからの募金額

- クリスマス募金 149,936,951円
- 水と食糧のための募金 31,290,836円
- ラブ・ローフ募金 1,282,159円
- コミュニティ・サポーター 83,710,000円
※子ども保護、難民支援分含む
- 緊急食糧援助募金 10,000円

アフガニスタンからの報告

アフガニスタン、バグリス州における児童および妊産婦に対する栄養支援事業
アフガニスタン、バグリス州およびゴール州における緊急食糧支援事業
公共施設の建設・補修工事を通じた食糧支援



支援の背景 負のスパイラルで 食料危機がさらに深刻に

アフガニスタンでは長年にわたる紛争や干ばつに加え、2021年8月以降の急激な政情の不安定化によって、雇用の減少や食料価格の高騰が加速し、深刻な食料危機に陥っています。乳幼児をはじめ多くの人々が必要な食糧を得られず、栄養不良に直面しています。貧しい世帯の中には子どもの退学・労働や家畜の売却などを余儀なくされるケースもあり、連鎖的に問題を引き起こす原因にもなっています。



栄養不良の乳児



栄養治療食を受け取った子ども



緊急の食糧支援。配布の様子



河川の整備作業をするコミュニティの人々

緊急の食糧支援と コミュニティの回復を見据えた支援

2022年度の主な成果

労働で得た現金から必要な食料を購入

国連世界食糧計画 (WFP) との協働により、アフガニスタン西部のバグリス州やゴール州の農村地域で、特にぜい弱性の高い世帯を対象に緊急の食糧配布支援を実施しました。また貧困世帯の多い農村地区や避難民キャンプでの子どもの深刻な栄養不良に対応するため、バグリス州やヘラート州の特に栄養不良な状態にある生後6カ月～5歳の乳幼児と妊産婦へ栄養治療食を配布しました。このような緊急支援と同時に、家畜や雇用機会を失い貧困にあるコミュニティの人々が、収入を得て必要な食料品を購入できるよう、河川の堤防や取水施設などコミュニティ内の公共施設の建設や補修工事に参加した世帯に対し、労働の対価として現金給付を行いました。

支援地域からの声

家族の命をつないでくれた食糧支援に感謝しています

長年の紛争や干ばつに直面し、私を含め村人は家畜を失いました。干ばつで作物を育てることもできません。私は仕事もなく、家族の食べ物も家を暖めることもできません。しかし、小麦や豆など食糧支援を受け取ることができました。この支援は私たち家族の命をつないでくれました。とても感謝しています。



食糧支援に感謝するアブドゥルさん

数値で見る成果

緊急の食糧支援を受けた人

201,417人

配布した緊急食糧支援

4,985トン

労働の対価として
現金給付を受けた世帯

2,834世帯
(19,580人)

世界規模の食料危機・飢餓へのワールド・ビジョンの対応

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)、紛争 (Conflict)、気候変動 (Climate Change) という3つの「C」により、かねてより深刻な状況にあった食料危機は一層深刻になり、2022年、飢餓人口・栄養不良に苦しむ子どもたちの数は世界全体で増加しました。ワールド・ビジョンは、国連世界食糧計画 (WFP) 等と連携し、グローバルなパートナーシップの力を総動員して今この瞬間、食料や栄養治療を必要とする子どもたちへ、食料・現金/パウチャーなど状況とニーズに応じた形で緊急支援を届けるとともに、中長期的な食料・栄養安全保障を高めるため、持続可能な農業畜産技術の支援、栄養価の高い食物の栽培や調理法の支援、生計向上支援等を行っています。



食糧配布の準備の様子

ソマリアからの報告

ソマリア・ソマリランドにおける栄養支援事業



支援の背景

子どもたちの成長を奪う 深刻な食料危機

アフリカ東部のソマリアでは、2020年から続く降雨不足が原因で農作物、家畜、牧草地への悪影響が拡大しています。食料価格の高騰や雇用機会の減少により、人々は危機的な食糧不足に直面する中、ぜい弱層への影響は特に大きく、多くの子どもたちが免疫力の低下、そしてビタミンや牛乳の摂取量低下による栄養状態の深刻な悪化に陥っています。



支援の配布センターでの登録の様子



栄養治療食を受け取る子ども



食糧支援を受け取る人々



母親のためのカウンセリングの様子

飢餓の不安から抜け出し お母さんが安心して子育てできる環境を

2022年度の主な成果

栄養不良の改善・予防に向けた支援を実施

国連世界食糧計画 (WFP) と協力し、アウダル地域やマローディ・ジェーハ地域において、栄養不良の5歳未満の子ども、そして妊娠・授乳中の母親のための食糧支援を行いました。また、すでに健康状態が悪化した人々への支援のみならず、栄養不良を未然に防ぐための食糧支援を通じて、妊娠中の母親が安全な出産に備えられるよう配慮しました。事業の実施にあたっては、対象地域の保健省スタッフや同国の結核センターのスタッフ等とも協働のうえ、コミュニティに住むぜい弱層の人々が円滑に支援を受けられるよう調整を行いながら、169,000人以上の人々の栄養状態の改善に取り組みしました。

支援地域からの声

栄養不良から回復しました

ソマリアの子どもたちは深刻な貧血やビタミン不足に苦しんでいます。幼いアイシャちゃんはそのひとり。食欲がなく体調が悪化するアイシャちゃんは、心配した母親に連れられてワールド・ビジョンの栄養支援を受けました。数カ月の支援の末、母親のホードーさんは「アイシャの食欲は劇的に回復し、元気になりました」と感謝しています。



スクリーニング検査を受けるアイシャちゃん

数値で見る成果

配布した食糧

861トン

栄養補助支援を受けた5歳未満の子ども

65,313人

栄養不良予防のための食糧支援を受けた
妊娠・授乳中の母親

45,804人

国内での事業

日本国内で、貧困や災害の影響等で困難に直面する子どもたちに寄り添い、支援を届けています。

緊急

アドボカシー

国内支援

新型コロナウイルス対策子ども支援事業

子どもたちのために食・遊び・学び・居場所を支援

「新型コロナウイルス対策子ども支援事業」を2022年度も実施しました。地域の子ども支援団体計7団体(7事業)への助成(前年度からの継続分)に加え、DV・虐待被害者等の宿泊型支援等を行う団体計1団体(1事業)への助成を開始し、約760人の子どもの食・遊び・学び・居場所等を支えることができました。また、新たな試みとして、夏休みの子どもの居場所「なかのマイスペース」を、中野区の特定非営利活動法人ここからプロジェクトとの協働により実施しました。2022年8月に区内3カ所で計14回開催、のべ47人の子どもが参加しました。



助成を行った「エプロン若菜」での弁当配布時の体温測定の様子

子どもの権利が実現する社会を目指す活動

「月刊 世界へのトビラ」を2022年8月から発行

子どもの権利の啓発素材として「月刊 世界へのトビラ」を2022年8月より発行し、中野区内の教育機関等でご活用いただいています。ワールド・ビジョン・ジャパンの公式HPでもご紹介しています。

中野区立中野東図書館に掲示中の「月刊 世界へのトビラ」



スタッフの声



高橋布美子スタッフ

2020年度から開始した「新型コロナウイルス対策子ども支援事業」。2022年度からは、DV、虐待被害者等の宿泊型支援等を行う団体にも助成を開始しました。その現場から学んだことは、困難な環境にある子どもや親がその環境を抜け出し、回復し、次のステップに進もうとする時に、安全で安心できる場所と信頼できる人の存在がいかに重要かということです。「受け入れられている」「尊重されている」という体験が、短期間であっても、その後の心の支えになり得るのだと知りました。そのような一つひとつの関わりを大切に活動している団体と今後も学び合い、連携して社会課題の解決に取り組みます。2022年6月15日に、「子ども基本法」と「子ども家庭庁設置法」が成立しました。「子どもの権利条約」を日本が1994年に批准して以来待ち望まれていた、子どもの権利の包括的な基本法です。ワールド・ビジョン・ジャパンが実行委員団体として参加している「広げよう!子どもの権利条約キャンペーン」でも、このことを歓迎し、子どもの権利を基盤とする施策がいつそう進むよう、政策提言や啓発等を進めます。ワールド・ビジョン・ジャパンの国内支援は、2023年度からは、「国内子ども支援事業」に名称を変更し、これまでの経験を基盤としながら、日本の子どもの豊かな成長を支え、日本社会における子どもの権利の実現に向けて取り組みを拡充する予定です。皆さまのご理解とご協力を引き続きよろしくお願いいたします。

アドボカシー

子どもを取り巻く問題の根本解決を目指し、不公正な社会を変えていくため、政府や市民社会に訴えます。

アドボカシー

アドボカシー

子どもに対する暴力撤廃

子どもに対する暴力撤廃をめざす講演のほか、論文を寄稿

2021年にワールド・ビジョン・ジャパンも市民社会の立場から作成に携わった子どもに対する暴力撲滅国別行動計画や、中でも言及されているINSPIRE(子どもに対する暴力撤廃のための7つの戦略)の国内での普及・啓発に取り組みました。その一環として、2021年12月に横浜で開催された日本子ども虐待防止学会学術集会第27回かながわ大会にて、INSPIREに関する講演を行ったほか、2022年3月に出版された研究誌『子どもの権利研究』(子どもの権利条約総合研究所発行)第33号に「『子どもに対する暴力撲滅行動計画』の意義と課題」と題する論文を寄稿しました(文京学院大学甲斐田万智子教授との共著)。



日本子ども虐待防止学会で講演する柴田スタッフ

緊急時および長期化する危機下の教育

認知向上に向けた活動を展開

緊急下、危機下の教育のための国際基金「教育を後回しにはできない(ECW: Education Cannot Wait)基金」の助成を受け、日本の政府や市民社会における緊急時および長期化する危機下の教育(EiEPC: Education in Emergencies and Protracted Crises)に関する認知向上を目指し、様々な活動を展開しました。EiEPCの現状と重要性、それに対して日本としてできることについて、ECW事務局長を招き、ユース世代が各分野の専門家と議論を行う国際オンラインシンポジウムを開催し、政府機関、国際機関、アカデミア、民間企業、NGO等から78名が参加しました。また緊急下の教育協力を携わる専門家や実務者と連携し、全5号にわたるEiEPC Eニュースを発行し、緊急下の教育勉強会を開催しました。



国際オンラインシンポジウムの様子

国連教育変革サミットに参加

教育の重要性とSDG4教育目標達成の危機感を表した大規模国際会議

2022年9月、第77回国連総会に合わせてニューヨークで開催された教育変革サミット(TES: Transforming Education Summit)に参加しました。2022年初頭からの世界各地での集中的・包摂的な準備プロセスを経て開催されたTESは、65人の国家元首をはじめとし、教育大臣、国連諸機関のトップ、地域・国家機関、民間セクター、市民社会、教員、アカデミア、専門家、若者など、2,000人以上が参加する教育分野では初めてのハイレベルかつ大規模な国際会議でした。「現在世界が直面する地球規模課題解決のために最も必要なことは教育」との発言が多くなされ、様々な国から参加した若者が、新しいツールを駆使しながら、議論、提言、発信などを力強く進め、若者の存在感を示しました。



国連本部内会議場における会議の様子

企業・団体との連携

企業との連携

1,876社から、総額406,969,448円のご支援をお寄せいただきました。

企業の皆さまから、チャイルド・スポンサーシップ、特別プロジェクト、商品・サービスの売り上げからの寄付、社員募金と企業のマッチング募金、ボランティアへの協力等、様々な支援・協力をいただきました。ウクライナ危機緊急支援のためにも多くのご支援をお寄せいただきました。

2022年度支援実例紹介(一部)

特別プロジェクトによる支援



塩野義製薬株式会社

ご法人とSHIONOGIグループ社員からのご寄付をもとにケニアの母子保健改善に向けた取り組み「Mother to Mother SHIONOGI Project」を支援いただいています。プロジェクト開始から8年となる2022年度は、キリフィ県での第2期事業を実施しました。



株式会社JYPエンターテインメント・ジャパン

JYPエンターテインメントが展開する社会貢献プログラムEDM(Every Dream Matters!)の一環として、アジア4カ国での「最も弱い立場にある子どもたちのための医療費支援プロジェクト」を支援いただきました。



北商物流株式会社

「安心・安全に使える道路は、人々の生活に欠かせない大切なインフラである」という思いから、フィリピンでの道路整備支援事業を支援いただきました。

チャイルド・スポンサーシップ等を通して



山崎製パン株式会社

チャイルド・スポンサーシップを通して、ルワンダとバングラデシュのチャイルドを支援くださっています。また2022年度は、ヤマザキ『ラブ・ローフ募金』により、タンザニアでの農産物加工工場建設支援事業を実施しました。



株式会社チュチュアンナ

チャイルド・スポンサーシップを通して、25人のチャイルドを支援いただいています。また2022年度は、日本国内での子ども支援事業を実施しました。



株式会社タイセイ

長年にわたり、アジアでのチャイルド・スポンサーシップと特別プロジェクトを通して支援いただいています。2022年度には、ウクライナ危機緊急支援募金にもご協力をいただきました。



玉の肌石鹸株式会社

20年以上の長きにわたって国内外の子どもたちを支援いただき、関係会社とあわせて100人のチャイルド・スポンサーとして、子どもたちの成長を見守ってくださっています。



クラウドバンク・グループ

クラウドファンディング事業等から得た収益をもとに、アジア5カ国100人のチャイルド・スポンサーとして、子どもたちの成長を支えていただいています。



株式会社山田養蜂場

世界8カ国100人のチャイルド・スポンサーとして支援いただいています。社員の方々もチャイルドからの手紙を楽しみに、交流を続けてくださっています。

商品・サービスの売り上げからの寄付



ビッグロブ株式会社

いつものスマホ生活で寄付もできるドネーション型モバイルサービス「donedone」(ドネドネ)を通して、難民支援募金に寄付いただいています。未来ドラフト2021もご協賛いただきました。

支援・協力をいただいた企業(一部)



松田産業株式会社



ヤフー株式会社



三菱自動車工業株式会社



ブルームビルド株式会社



株式会社サンブロス



ハニカム・テクノロジー株式会社



パナソニック株式会社



東芝プラントシステム株式会社



MS&ADゆにぞんスマイルクラブ



有限会社香取運輸



ミヨシ石鹸株式会社



日清製粉株式会社



株式会社不二家



オリエンタル酵母工業株式会社



月島食品工業株式会社



アース製薬株式会社



株式会社レントラックス



ファルマ・ソリューションズ株式会社



株式会社ウチヤマホールディングス



株式会社ブルマーレ



ジースプレッド株式会社

三菱自動車STEP募金
宮園輸入車販売株式会社
株式会社シンシア
株式会社FDJ
株式会社アブリシエイト
株式会社トーン・アップ
株式会社プチファーマシスト

株式会社メディアボックス
株式会社ヨコハマ(つり具のブンブン)
株式会社秋山住研
キャリアインキュベーション株式会社
株式会社シーグランド
株式会社中央軒煎餅
西川株式会社

株式会社マスバック
浜松産業株式会社
株式会社ニッシンイクス
株式会社うおはん
株式会社双雲事務所
若尾製菓株式会社
山下湘南夢クリニック

各種団体との連携(一部)

1,240団体から、総額86,407,738円の支援が寄せられました。

公益財団法人毎日新聞東京社会事業団
気仙沼漁業協同組合
学校法人愛恵学園愛恵幼稚園
青山学院 宗教センター
さくらアカデミー
学校法人捜真学院捜真小学校

梅光学院大学 梅光学院中学校・高等学校
学校法人ベタニヤ学園日進ベタニヤ幼稚園
ウェスレアン・ホーリネス教団 淀橋教会
シオン・キリスト教団 蒲田教会
東京フリー・メソジスト教団 小金井教会

東京ユニオンチャーチ
日本イエス・キリスト教団 荻窪栄光教会
日本福音キリスト教会連合 グレースコミュニティ
日本ホーリネス教団 坂戸キリスト教会
大和カルバリーチャペル

広がる支援の輪

チャイルド・スポンサーシップによる地域開発プログラムに加えて、教育、保健・栄養、水衛生等、特定分野の課題解決を後押しするための個別事業を、「特別プロジェクト」として実施しています。特別プロジェクトは、学校校舎や診療所等の建設事業と研修・啓発事業等を組み合わせて行われます。支援者は企業・団体、個人等さまざまですが、近年では遺贈・相続財産のご寄付による支援も増えています。

個人による支援

イラクと南スーダンの小学校 校舎修復・建設を支援

インターネットの世界で「Doge(ドージ)」の名で親しまれ、「世界一有名な柴犬」とも言われる、かぼすちゃん。飼い主であるS様は、かぼすちゃんの写真を出品したチャリティオークションの売上から、イラクと南スーダンでの小学校校舎修復・建設を支援くださいました。紛争により厳しい環境で暮らす子どもたちが、安全な学校で、安心して学べるようになりました。



修復後の安全な校舎で学ぶ子どもたち(イラク)



かぼすちゃんの写真は、校内に飾られています

遺贈・相続財産による支援

「人生の証」を子どもたちの より良い未来につなげます

「遺贈」は、遺言によって遺産の一部またはすべてを特定の個人や団体に無償で譲与することです。また、故人のご遺志を受け継いだ相続人が、相続財産から寄付することもできます。2022年度は、14件の遺贈寄付をいただきました。お一人おひとりの「人生の証」であるご寄付をしっかりと受け止め、最も弱い立場にある子どもたちのために、大切に使用させていただきます。

遺贈寄付について ご相談・お問い合わせは

電話 03-5334-5355
(平日 10:00~17:00)

メール donation@worldvision.or.jp

詳しいパンフレット(無料)もご用意しています >>>



マイルストーン・プロジェクトによる支援

シリアの小学校 5校の校舎修復・建設事業を支援

「マイルストーン・プロジェクト」は、一口あたり100万円の寄付をいただき、共同でひとつの事業を実施するものです。共同で支援いただくことで、より規模の大きい事業を実施することができます。2022年度はシリア北西部で、紛争によって破壊された学校5校の校舎修復・建設事業を実施しました。



空爆によって破壊された校舎



修復後の教室内部

皆さまとともに

イベントやボランティア等、多くの方にワールド・ビジョン・ジャパン(WVJ)の活動に参加いただいています。

グローバル教育

世界に目を向ける取り組みの参加者が倍増



対面式の授業に参加して下さった東京都立国際高等学校の皆さん

日本の子どもや若者が世界に目を向ける機会となるよう、未就学児から大学・大学院生まで幅広い年齢層を対象に「グローバル教育」を実施しています。対面やオンラインでの「講師派遣」を56回実施し10,212名が参加、ワールド・ビジョン・ジャパン事務所への「事務所訪問」やオンラインインタビューは18回行われ、58名が参加、オンラインで4回開催した小学生向けサマースクールは602名に参加いただきました。また、動画コンテンツや株式会社ポケモン様のご寄付を受けて開発したデジタル教材は1,848名が利用してくださいました。これらの取り組みを通して、グローバル教育への参加者は昨年の4,848名を大きく上回る12,118名となりました。



オンラインで開催したサマースクールに参加し、クイズに答える子どもたち

各種イベント

オンラインイベントに、のべ約1,700人が参加

新型コロナウイルス感染症の影響が残る2022年度は、ワールド・ビジョンの活動をお伝えするイベントのほとんどをオンライン開催で実施しました。12月のクリスマスキャンペーン期間中には、コロナ禍と気候変動の影響で拡大する飢餓について、南スーダンやアフガニスタンの映像とともにご報告しました。その他、インスタライブやバーチャルツアー、ウクライナをはじめ人道支援の最前線で活動するスタッフを交えた難民支援についてのご報告等、実施する事業の様子をお伝えするオンラインイベントに、日本各地や海外からも参加いただきました。



オンラインイベントの様子

ボランティア

手紙翻訳や動画編集など、さまざまなお協力をいただきました

2022年度は、90人の皆さまに活動を支援いただきました。在宅では手紙翻訳、動画編集、発信物の編集など、事務所では各種データ入力、手紙や資料の発送業務など、チャイルド・スポンサーシップをはじめ団体で実施するプログラムに関連する活動にご協力いただきました。チャイルド・スポンサーからの手紙は、約19,800通を東京事務所より各国現地事務所へ、チャイルドからの手紙は、約13,500通をチャイルド・スポンサーにお送りし、手紙を通しての交流を支援いただきました。



チャイルド・スポンサーからの手紙を受け取り、笑顔のルワンダのチャイルド



発送準備中のチャイルドへの手紙

書籍出版

「いのちのバトンをつなぎたい 世界の子どもの3人に1人は栄養不良」を出版

世界保健デーの4月7日、世界の栄養不良の問題を通して今できることを考える国際協力の入門書を出版しました。栄養不良の問題を軸に、ワールド・ビジョンが世界で出会った子どもたちの生活を紹介しつつ、飢餓、紛争、水衛生、生計向上などの分野に触れ、複雑な問題が絡み合い栄養不良が起因していることを解説しています。さらに、WVJの活動事例や、国や団体の枠を超えた世界全体での取り組みに触れながら、問題解決の糸口を探ります。読者層を中学生以上に想定し、写真やイラストを多用して読みやすく仕上げています。



いのちのバトンをつなぎたい
世界の子どもの3人に1人は栄養不良
発行：合同出版株式会社
定価：1,760円(本体1,600円+税)
ISBN: 9784772614924

ウクライナ危機緊急支援

ワールド・ビジョンは危機発生直後からウクライナの子どもたちに寄り添っています

2022年2月にウクライナ危機が発生し、2023年1月時点でおよそ600万人が国内で、1,700万人以上が国外で避難生活を送っています。ワールド・ビジョンは危機発生直後から、隣国ルーマニアの国境地帯およびウクライナ国内での緊急人道支援を開始。その後、活動の分野と国・地域を広げ、ウクライナの故郷を追われた子どもたちの命を守り、日常を取り戻し、未来を築くための支援を展開しました。2022年度末(2022年9月末)までに子ども131,974人を含む360,718人に支援を届けました。

活動の成果(一例)



食料を届けた
人の数

229,428人



届けた
食料の総量

1,628.68トン



「子どもの保護」プログラムを
通じて支援した子どもの数

7,179人



教育支援を受けた
子どもの数

11,817人



現金・パウチャー給付を
受けた人の数

32,707人



給付した
現金・パウチャーの総額

4,174,793USD



一時滞在先(シェルター)を
提供した人の数

25,597人



衛生用品キットを
受け取った人の数

57,796人



ドイツにあるワールド・ビジョンの備蓄倉庫。常に支援物資を用意し、緊急時にすぐに対応することができます。



子どもが安心して過ごせるチャイルド・フレンズドリー・スペースの様子。この他、夏にはサマー・キャンプを行いました。



一時滞在先の子どもの遊び場を利用する親子。

国内での活動

日本の皆さまとともに、ウクライナ危機の中にある子どもたちに想いを寄せて

ウクライナ人道支援特別コンサート

2022年6月8日(水)夜、ウクライナ出身のオペラ歌手オクサーナ・ステパニウクさんを招き、ウクライナ人道支援特別コンサートを開催しました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大後初の対面イベントで、会場のウェスレアン・ホーリネス教団定橋教会には300人を超える方々が集まり、YouTube同時配信は350人以上に視聴いただきました。故郷への愛と平和への祈りのもったオクサーナさんの歌声、ウクライナを逃れて日本YMCA同盟の支援を受けて来日、日本で避難生活を送るマリアさんのお話に耳を傾け、ウクライナの子どもたちと人々に想いを馳せるひと時を皆さまと一緒に過ごしました。



平和への祈りをこめて歌うオクサーナさん

ウェビナー ウクライナ・シリア 紛争下の“今”を支える支援とは

2022年6月16日(木)夜、6月20日の世界難民の日を前に、紛争下の今を支える支援活動の最前線の様子を伝えるウェビナーを開催しました。ワールド・ビジョン・ジャパン事務局長の木内真理子と支援事業部緊急人道支援課長の伊藤真理の対談形式で行われ、支援担当者の率直な想いを皆さまにお伝えしました。ワールド・ビジョンで人道支援における現金・パウチャー給付支援分野を統括するキャサリンスタッフからのビデオメッセージも届けられました。紛争の影響下にある地域で、学びや遊びの中で心身の成長を育む「子ども時代」が失われています。ワールド・ビジョンが人々の尊厳を守り、明日に希望を見出せるようにどのような活動を進めているかをご紹介します。



人道支援における現金・パウチャー給付の意義について説明するキャサリンスタッフ(右)とWVJ伊藤スタッフ(左)

2022年度 会計報告

正味財産増減の状況 2021年10月1日より2022年9月30日まで(単位:千円)

I. 一般正味財産増減

経常収益			
1 受取寄付金	受取スポンサーシップ募金	3,283,628	
	受取その他募金・寄付金(1)	1,032,283	4,315,911
2 受取補助金等	政府系機関からの受取補助金等	325,781	
	(2) 民間団体からの受取助成金等	264,329	
	国連機関からの受取委託金等	3,623,542	4,213,652
3 受取会費		590	
4 基本財産運用益・特定資産運用益・雑収益		1,500	
経常収益合計(A)		8,531,653	

経常費用

1 事業費	地域開発援助事業費	7,439,160	
	地域開発援助・委託援助事業費(※)	7,251,378	
	地域開発援助事業管理費(5)	187,782	
	人材派遣費(3)	6,064	
	啓発教育費	965,932	
	各種啓発教育費(4)	569,534	
	啓発教育事業管理費(5)	396,398	8,411,156
2 管理費(5)		106,182	
経常費用合計(B)		8,517,338	

経常外収益

1 固定資産売却益	45
経常外収益合計(C)	45

当期一般正味財産増減額(A+C)-(B)	14,360
一般正味財産期首残高	1,653,735
一般正味財産期末残高(D)	1,668,095

II. 指定正味財産増減

当期指定正味財産増減額	87,620
指定正味財産期首残高	343,743
指定正味財産期末残高(6)(E)	431,363

III. 正味財産期末残高

正味財産期末残高(※)(D)+(E)	2,099,458
--------------------	-----------

資産・負債の状況 2022年9月30日現在(単位:千円)

I. 資産の部

1 流動資産	546,127	
	現金預金	513,275
	前払金	27,753
	立替金	4,007
	仮払金	207
	その他流動資産	885
2 固定資産	1,878,411	
	基本財産	50,000
	特定資産(6)	1,741,262
	補助金・助成金・委託金引当資産	426,363
	地域開発援助事業引当資産	1,142,000
	募金引当資産	5,000
	その他特定資産	167,899
	その他固定資産(7)	87,149
資産合計	2,424,538	

II. 負債の部

1 流動負債	157,181	
	未払金	131,374
	預り金	2,686
	賞与引当金	23,051
	未払法人税等	70
2 固定負債	167,899	
	退職給付引当金	167,899
負債合計	325,080	

III. 正味財産の部

1 指定正味財産	431,363
(うち特定資産(6)への充当額)	(431,363)
2 一般正味財産	1,668,095
(うち基本財産への充当額)	(50,000)
(うち特定資産(6)への充当額)	(1,142,000)
正味財産合計	2,099,458
負債及び正味財産合計	2,424,538

※地域開発援助・委託援助事業費の内訳(アドボカシー費492千円除く)については、P27-28の支援事業一覧をご覧ください。

※※正味財産の内訳は、資産・負債の状況のIII.正味財産の部を参照ください。

(1)~(7)については、次ページからの「会計報告の注記」を参照ください。

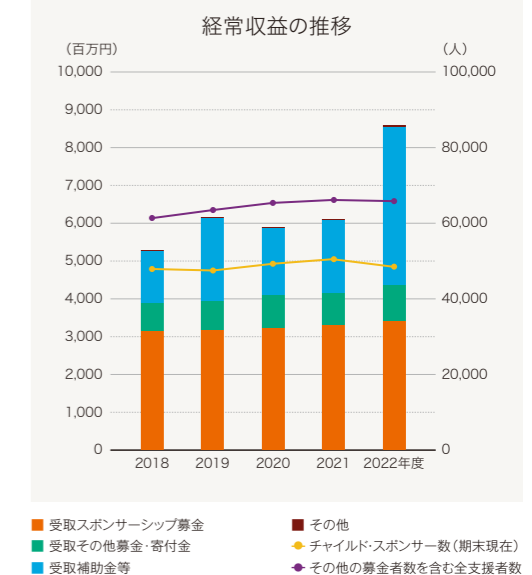
特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパンは2022年度財務諸表等(2021年10月1日より2022年9月30日まで)について、以下の監査を受けています。

2022年11月14日 森岡伸介公認会計士事務所による監査

2022年12月1日 監事による監査

【数字で見るワールド・ビジョン・ジャパン(P3-4)について】

- 「資金の集め方」は、上記会計報告の「経常収益合計(A)」を100%とし、各項目には以下の科目を含みます。
 - チャイルド・スポンサーシップ募金 : 「受取スポンサーシップ募金」
 - その他募金・寄付金 : 「受取その他募金・寄付金」
 - 補助金等 : 「受取補助金等」
 - その他 : 「受取会費」「基本財産運用益・特定資産運用益・雑収益」
- 「資金の使い方」は、上記会計報告の「経常費用合計(B)」を100%とし、各項目には以下の科目を含みます。
 - 現地事業活動のため : 「地域開発援助事業費」「人材派遣費」
 - 広報活動のため : 「啓発教育費」
 - 団体の運営・管理のため : 「管理費」



会計報告の注記

●重要な会計方針の要約

- 1) 財務諸表の作成基準**：特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパンは「公益法人会計基準」（2008年4月11日 2020年5月15日改正 内閣府公益認定等委員会）に基づいて会計処理および財務諸表の作成を行っています。
- 2) 固定資産の減価償却について**：定額法による減価償却を実施し、償却額控除後の価額を表示しています。
- 3) 引当金の計上基準**：
 - 賞与引当金： 職員の賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当期に帰属する額を計上しています。
 - 退職給付引当金： 職員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務に基づき、当期末において発生していると認められる額を計上しています。
- 4) 消費税等の会計処理**：消費税等の会計処理は、税込み経理方式によっています。

(1) 受取その他募金・寄付金の内訳 (単位:千円)

児童保護募金	4,562
誕生日記念募金	25,426
危機にある子どもたちのための募金	44,812
ラブ・ロープ募金	12,636
うちラブ・ロープ募金	1,282
うちヤマガキ【ラブ・ロープ】募金	11,354
緊急援助募金	113,967
うちウクライナ危機緊急支援募金	100,609
うち新型コロナウイルス緊急支援募金	1,740
うちシリア緊急支援募金	1,099
うちチャンマー難民危機緊急支援募金	889
うちエチオピア北部緊急人道支援募金	507
うち緊急食糧援助募金	10
クリスマス募金	149,937
水と食糧のための募金	31,291
夏期募金	38
難民支援募金	145,092
国内子ども支援	22,979
コミュニティ・サポーター	83,710
プロジェクト・サポーター	44,192
プロジェクト・サポーター(難民支援)	29,041
ラオスの子どもたちのための募金	18,909
特別プロジェクト募金	248,284
その他の募金・寄付金	57,407
受取その他募金・寄付金合計	1,032,283

(3) 人材派遣費

人材派遣費とは、地域開発援助事業等の事前調査・視察・調整のための短期調整員・駐在員・海外契約スタッフ・外部専門家派遣に関わる費用です。

(4) 各種啓発教育費の内訳 (単位:千円)

広告費	481,091
各種広告費	366,226
パンフレット等印刷費・通信運搬費他	114,865
広報費	30,626
年次報告書(2021年度版)制作・発送費等	10,447
団体ホームページ制作費等	8,525
その他の広報活動費	11,654
ニュースレター制作・発送費等	20,212
チャイルド・スポンサーおよび寄付者への連絡物制作・発送費等	34,245
その他啓発費等	3,360
グローバル教育活動・学校訪問等の費用	2,344
ラブ・ロープ募金箱の製作・運搬費等	1,002
活動報告会	14
各種啓発教育費合計	569,534

(2) 受取補助金等の内訳 (単位:千円)

政府系機関からの受取補助金等	325,781
外務省 日本NGO連携無償資金協力	325,781
バングラデシュ/北ダッカ市ミルプールの貧困層居住地区におけるコミュニティのごみ・衛生管理能力強化事業1	-61
バングラデシュ/北ダッカ市ミルプールの貧困層居住地区におけるコミュニティのごみ・衛生管理能力強化事業2	40,849
バングラデシュ/北ダッカ市ミルプールの貧困層居住地区におけるコミュニティのごみ・衛生管理能力強化事業3	17,956
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途41,147千円保有しています。)	
ラオス/タハントン郡における初等教育の学習環境改善事業2	21,189
ラオス/タハントン郡における初等教育の学習環境改善事業3	26,518
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途24,758千円保有しています。)	
タンザニア/ムキンガ郡における水の安全保障プロジェクト2	-8,212
タンザニア/ムキンガ郡における水の安全保障プロジェクト3	41,208
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途55,532千円保有しています。)	
エチオピア/アムハラ州フレゲ・ヒウォット病院の安全・衛生環境改善事業1	2,753
エチオピア/アムハラ州フレゲ・ヒウォット病院の安全・衛生環境改善事業2	32,767
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途37,577千円保有しています。)	
ベトナム/ディエンビエン省における山岳民族の女兒と女性に対する人身取引予防事業2	31,444
ベトナム/ディエンビエン省における山岳民族の女兒と女性に対する人身取引予防事業3	30,670
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途47,532千円保有しています。)	
カンボジア/ブレイピア州における母子保健・栄養・水衛生改善事業2	23,841
カンボジア/ブレイピア州における母子保健・栄養・水衛生改善事業3	44,064
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途32,827千円保有しています。)	
ヨルダン/イルビット県における脆弱層に向けた初等・中等教育の就学・学習支援体制強化事業1	20,795
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途71,728千円保有しています。)	
民間団体からの受取助成金等	264,329
特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム	257,069
ヨルダン/シリア難民およびヨルダン人の子どもたちへの教育支援事業6	1,348
ヨルダン/アズラック難民キャンプおよび非公式居住地における新型コロナウイルス感染症予防のための水衛生支援事業	44,611
南スーダン/マラルカ市市内における新型コロナウイルス感染症予防支援	16,050
南スーダン/タンブラ郡における紛争後の新型コロナウイルス感染リスクの高い人々への水衛生と保健施設感染対策強化支援事業	30,909
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途31,890千円保有しています。)	
バングラデシュ/ミャンマー避難民キャンプ及びホストコミュニティにおけるジェンダーに基づく暴力(GBV)からの保護とコミュニティのGBV防止・対応能力強化事業	36,093
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途6,046千円保有しています。)	
バングラデシュ/ミャンマー避難民キャンプ大規模火災被災者への生活復旧支援事業	2,057
ウガンダ/ビティビティ難民居住地における子どもの保護事業	889
イラク/モスル西部の緊急期における子どもの保護事業	243
イラク/モスル西部の安全な教育環境の整備と子どもの保護事業	36,410
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途3,296千円保有しています。)	
南スーダン/セントラル・アッパーナイル・緊急期の教育支援事業	-11
シリアにおける国内避難民への水衛生支援事業	-6
シリアにおける新型コロナウイルス感染症予防対策と水衛生事業	51,166
シリアにおける基礎的水衛生サービスを通じた新型コロナウイルス感染症予防対策事業	32,346
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途5,466千円保有しています。)	
エチオピア/ティグライ州における緊急水衛生・保健栄養支援事業	2,985
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途4,150千円保有しています。)	
エチオピア/アフアル州における水衛生支援事業	1,979
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途64,414千円保有しています。)	
パナソニック株式会社	4,937
ケニア/エンクトト地区電化による生活改善支援事業	4,937
横河電機株式会社	2,323
バングラデシュ/シレット県の地域の特性に応じた安全な水へのアクセス改善事業	2,323
国際機関からの受取委託金等	3,623,542
国連児童基金(UNICEF)	153,327
国連世界食糧計画(WFP)	2,350,637
うち、受取委託物品	660,303
世界銀行(World Bank)	188,720
国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)	362,081
うち、受取委託物品	71,488
国連人道問題調整事務所(UNOCHA)	397,179
国連食糧農業機関(UNFAO)	6,130
欧州委員会人道援助・市民保護総局(ECHO)	46,566
教育を後回しにはできない(Education Cannot Wait)基金(ECW)	118,902
受取補助金等合計	4,213,652
マイナス表記となっている収入は、昨年度以前に受け取った補助金等を精算した際の返金額です。	

(5) 事業管理費等の内訳、および集計 (単位:千円)

事務局の運営に関わる事業管理費等は、以下の3つの科目に分けて計上しています。

地域開発援助事業管理費(以下、地開管理費)：地域開発援助事業に直接関わる国内管理費
啓発教育事業管理費(以下、啓発管理費)：啓発教育事業に直接関わる国内管理費
管理費(以下、管理費)：その他一般の国内管理費

各管理費の内訳、および内訳ごとの集計は以下の通りです。

	事業管理費等合計	地開管理費	啓発管理費	管理費
人件費等	417,976	133,873	213,251	70,852
会議費	1,478	257	0	1,221
旅費交通費	5,461	1,204	3,386	871
賃借料	49,312	15,402	25,489	8,421
支払手数料	130,763	1,130	119,152	10,481
その他の管理費	85,372	35,916	35,120	14,336
合計	690,362	187,782	396,398	106,182

人件費等： 職員等の給与手当、法定福利費等。なお2022年9月30日現在、職員73名、嘱託・アルバイト8名が在職
会議費： ワールド・ビジョン・パートナーシップ内等の国際会議出席のための渡航費用、その他国内会議費用
旅費交通費： 職員の通勤費、事務ポランティアの方の事務所までの交通費等
賃借料： 事務所家賃
支払手数料： 入金にかかる口座引落およびクレジット決済等の手数料、銀行・郵便局等金融機関の振込手数料等

(6) 特定資産の内訳 (単位:千円)

補助金・助成金・委託金引当資産(指定正味財産)の内訳			
NGO連携無償助成金	バングラデシュ	ダッカ3事業分	41,147
NGO連携無償助成金	ラオス3事業分		24,758
NGO連携無償助成金	タンザニア3事業分		55,532
NGO連携無償助成金	エチオピア	バハルダール2事業分	37,577
NGO連携無償助成金	ベトナム	人身取引予防3事業分	47,532
NGO連携無償助成金	カンボジア	ブレイピア3事業分	32,827
NGO連携無償助成金	ヨルダン1事業分		71,728
ジャパン・プラットフォーム助成金	南スーダン	タンブラ COVID-19事業分	31,890
ジャパン・プラットフォーム助成金	バングラデシュ5事業分		6,046
ジャパン・プラットフォーム助成金	イラク5事業分		3,296
ジャパン・プラットフォーム助成金	シリア4事業分		5,466
ジャパン・プラットフォーム助成金	エチオピア	ティグライ事業分	4,150
ジャパン・プラットフォーム助成金	エチオピア	アフアル事業分	64,414
補助金・助成金・委託金引当資産合計	合計		426,363

当年度までに受領した上記事業にかかる補助金等のうち、2023年度以降に支出を予定している金額です。

地域開発援助事業引当資産の内訳	
スポンサーシップ地域開発援助事業引当資産(7)	1,009,000
一般募金による地域開発援助事業引当資産(4)	123,000
緊急援助事業引当資産(7)	10,000

地域開発援助事業引当資産合計 1,142,000

(7)チャイルド・スポンサーシップによる事業(以下SP事業とする)に用途を特定した資産であり、2023年度以降のSP事業、為替相場変動によるSP事業への影響回避のための準備金、SP事業における緊急事態(緊急医療・自然災害・火災等)対応への準備金として、支出を予定しています。
(4)SP事業以外の地域開発援助事業(緊急・復興支援事業含む)に用途を特定した資産であり、2023年度以降に支出を予定しています。
(7)大規模な自然災害や紛争発生時の、初動の緊急支援活動のための準備金です。

募金引当資産(指定正味財産)の内訳	
一般募金によるバングラデシュ事業	5,000
募金引当資産合計	5,000

その他特定資産の内訳	
退職給付引当資産	167,899
その他特定資産合計	167,899

(7) その他の固定資産の内訳 (単位:千円)

建物附属設備	11,969
什器備品	9,624
ソフトウェア	31,688
電話加入権	373
敷金	33,495
その他の固定資産 合計	87,149

(8) 保証債務等

当団体は保証債務等の責は一切負っておりません。

(9) 為替レートについて

ワールド・ビジョン・パートナーシップでは、現地の地域開発援助事業等は米ドルにて予算管理を行っており、為替予約等によって、為替相場の変動による事業への影響をできるだけ抑えるよう努めています。2022年度(2021年10月1日～2022年9月30日)の地域開発援助事業費の総平均レートは、1米ドル=116.66円でした。

監査と情報公開

ワールド・ビジョン・ジャパンでは、会計および業務全体に関して2名の監事による内部監査とともに、外部の独立した公認会計士に依頼して会計監査を受けています。その会計報告の概要は、年次報告書やホームページで公開しています。また、特定非営利活動法人および認定NPO法人としての事業報告書等を、所轄庁である東京都に提出し、情報公開を行っています。ワールド・ビジョン全体としては、内部に監査機関を設置し、各国のすべての事務所が最低でも3～5年に一度、事務所全体の業務監査と会計監査を受けることになっています。もし監査の過程で疑義等が発生した場合は、その都度適切な対処を行います。

ワールド・ビジョンについて

ワールド・ビジョン(WV)は、約100カ国で活動する世界最大規模の国際NGOです

ワールド・ビジョンの始まり

WVの活動は、アメリカ生まれのキリスト教宣教師ボブ・ピアスによって始められました。第二次世界大戦後、混乱をきわめた中国に渡ったボブ・ピアスは、「すべての人々に‘何かも’はできなくとも、誰かに‘何か’はきっとできる」と考えるようになりました。中国で出会った一人の少女の支援を始めた彼は、より多くの支援を届けるため、1950年9月、アメリカのオレゴン州で「ワールド・ビジョン」を設立。朝鮮戦争によって両親を亡くした子どもたち、夫を亡くした女性たち、ハンセン病や結核患者に救いの手をさしのべることから始まり、現在は世界の子どもたちのために、「開発援助」「緊急人道支援」「アドボカシー」の3つを柱に、約100カ国で活動しています。



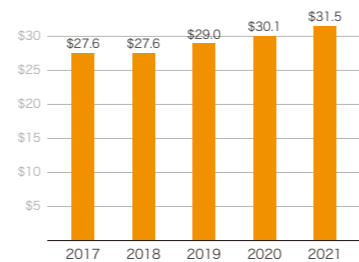
ワールド・ビジョン創設者
ボブ・ピアス

組織と運営

WVでは、各国が独自に総会・理事会を持ち、その国のWVの運営に関する責任を負っています。通常は、総会・理事会のもとに事務局が置かれ、実際の運営を行いますが、最終的な責任はその国の総会・理事会が持っています。

WV全体に関わる方針や事業計画、予算等については、各地域から選出された理事で構成される国際理事会で決定されます。このほか国際理事会では、新たに活動を開始する国や活動を終了する国の承認も行います。国際理事会のもと、WVパートナーシップ事務局が、各国・各地域間の調整業務や技術的サポートを行っています。

WV全体の収入推移(億米ドル)



ワールド・ビジョン 全体の活動データ(2021年度)

組織関連

活動国数

約100カ国

スタッフ数

約34,000人

新型コロナウイルス感染症に対する
支援を受け取った人

7,200万人以上
(2020年～累計)

活動関連

開発
援助

チャイルド・スポンサーを
紹介されている子ども

320万人以上

チャイルド・スポンサーシップによる
地域開発プログラム(AP)の総数

1,268

APによる支援が届いている子ども

約1,600万人

緊急
人道支援

緊急人道支援を届けた人

3,010万人以上

アドボ
カシー

ぜい弱な子どもたちのために
実施された運動

200万件以上

ワールド・ビジョン・ジャパンについて

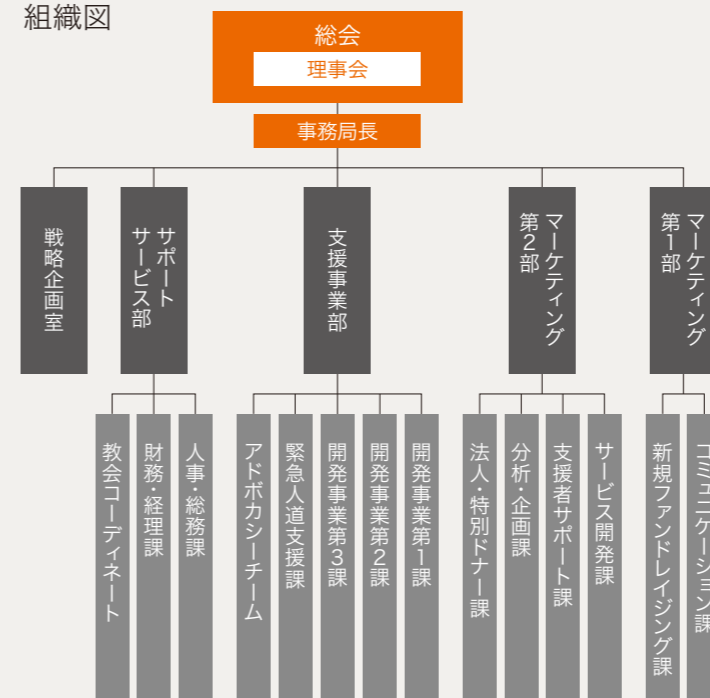
ワールド・ビジョン・ジャパンの始まり

WVは1960年代、日本でも両親を亡くした子どもたちが生活する施設等を通じて支援活動を行いました。その後、日本の経済成長と内外の海外支援に対する気運の高まりとともに、1987年10月に「ワールド・ビジョン・ジャパン」が設立され、独自の理事会を持つ組織として活動を開始しました。

1999年には「特定非営利活動法人」の認証を得て、法人格を持つ民間の援助機関となりました。また2002年5月には、国税庁より「認定NPO法人」に認定され、これ以降、当団体への寄付金は税制上の優遇措置を受けられるようになりました。また、その後のNPO法改正を受け、2014年8月からは東京都より改めて認定されています。



組織図



役員・親善大使(全員無給です)

- 理事長 小西 孝蔵(元農林中央金庫監事)
- 副理事長 飯島 延浩(山崎製パン株式会社代表取締役社長)
- 常務理事 片山 信彦
(前特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン事務局長)
- 理事 峯野 龍弘(ウェスレアン・ホーリネス教団淀橋教会牧師)
- 理事 湊 晶子(学校法人広島女学院顧問)
- 理事 三木 晴雄(玉の肌石鹸株式会社代表取締役会長)
- 理事 安西 愈(弁護士)
- 理事 安藤 理恵子(玉川聖学院中等部・高等部学院長)
- 理事 木内 真理子
(特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン事務局長)
- 理事 富岡 徹郎(国際基督教大学常務理事)
- 理事 チャールズ・パデノック
(ワールド・ビジョン・インターナショナル パートナーシップ・リーダー)
- 監事 村上 宣道(一般財団法人太平洋放送協会名誉会長)
- 監事 中島 秀一(日本イエス・キリスト教団荻窪栄光教会牧師)

親善大使 ジュディ・オング(歌手・女優・木版画家)

親善大使 酒井 美紀(女優)

2022年10月時点

SDGsへの取り組み

WVは、子どもたちの健やかな成長を目指す活動を通じて、持続可能な開発目標(SDGs: Sustainable Development Goals)の達成に向けた取り組みを進めています。

